

科目名	地域産業論				
授業形態	講義	学年	2		
開講時期	2023年度 前期	単位数	2		
担当教員	加藤 秋人				
内容および計画	<p>本講義は、日本の地域産業の発展について、歴史的経緯と地域別の観点から検討していきます。</p> <p>講義前半では、戦後の日本の地域産業がどのように変化してきたか、そしてそれは世界の政治・経済的潮流の中でどのような影響を受けてきたかを学びます。日本が経済発展を遂げてきたことは、それ自体が都市と地方・農村の間での人口流動などを招きました。それに対して政府は、「国土の均衡ある発展」を掲げて工業の地方への分散立地などを進め、地域産業の活性化を図ってきました。一方で、地方に立地した工場は、貿易摩擦や新興国の発展の影響を受け、バブル崩壊以降再び縮小局面にあるといえます。さらに現在の地方は、少子高齢化の影響も大きく受けています。講義後半では、こうした日本各地の現状について、地域別に見ていきます。そしてそれを通じて、地域産業の今後について考えていきます。</p>				
1	ガイダンス～講義内容・講義計画				
2	日本経済の発展と地域産業・地域経済				
3	グローバル化の中の地域産業・地域経済				
4	産業の地域構造 I—農業の動向				
5	産業の地域構造 II—工業の動向				
6	産業の地域構造 III—流通産業の動向				
7	東京圏の地域産業—卓越性とグローバル化				
8	京阪神地域の地域産業—3都市の個性とアジアとのつながり				
9	名古屋圏の地域産業—製造業の中心地として				
10	北海道・沖縄の地域産業				
11	周辺部の地域産業				
12	中間地域の地域産業				
13	産業集積地域の機能・特性・分類				
14	産業集積地域における企業間連携—航空機産業クラスターを事例として—				
15	まとめ—グローバル化の中の地域産業—				
教科書					
	タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年
	日本経済地理読本（第9版）	竹内敦彦・小田宏信 （編著）	東洋経済新報社	9784492100318	2014
参考書	ご相談いただければ紹介します。また、授業スライド内で使用する参考文献については書誌情報を提供しません。				
成績評価					
	評価方法			割合(%)	
	期末試験			80	
	授業内で提示する課題			20	

出席回数が一定水準に満たない場合には、失格とする可能性があります。	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の地域産業の時系列的変化について、その経緯を交えて説明できるようになること。 ・各地の地域産業の現状について、多様な要因・要素について網羅的に把握した上で、それらがどのように関連し合っているかを理解すること。 ・上記2点を踏まえ、今後の地域産業について自分なりの根拠を持って、論理的に論じられるようになること。
先修条件	
実務経験	
その他	